

**音声文字変換システムの活用～授業の専門性の発揮～**  
 全日本聾教育研究大会埼玉大会での研究発表・質疑応答@埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園

**Web会議システム (Zoom)**  
左：発言者 (手話) 右：司会者

UDトークアプリの入ったタブレット端末等

UDトークによる字幕

手話通訳者 2 名交代 (遠隔地から参加したろう教師の手話を読み取り通訳している)

左：司会者  
右：会場責任者

UDトーク誤変換を修正する教師 3 名

全国の参加者は、QRコード経由でUDトークの会議に参加し、音声文字変換されるのをリアルタイムで見ることができる。

音声認識率を上げるため、有線マイクを使用→  
→集団補聴器 (アンプ兼スピーカ)  
→タブレット端末…へと接続

Zoomの操作・管理をする教師 3 名

37

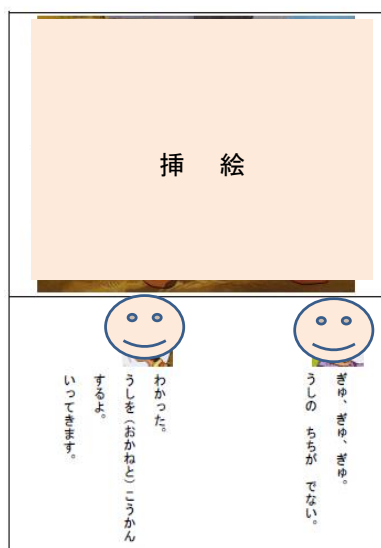
**I 聴覚障害教育を取り巻く状況と取り組むべき課題**

- 1 一人一人の幼児児童生徒に応じた教育の充実
  - 特別支援教育教育課程研究協議会から
  - 学習の基盤となる資質・能力の育成を目指して
    - 情報活用能力 -
- 2 保護者や学校以外の関係者に対する説明
  - **目に見えないことを伝える取組**
- 3 医療・福祉・労働等の関係機関との連携
  - 保健、医療、福祉と連携した聴覚障害のある乳幼児に対する教育相談充実事業
- 4 地域や社会との連携や協働

38



### 例3 単元のまとまりを通した学習の状況を示す



文の表出チェック表 【げき ジャックと豆の木】

氏名 5歳児 E児

№	文	/	/	/	/
1	ぎゆ、ぎゆ、ぎゆ うしのちらがでない。				
2	わかった。 うしを（おかねと）こうかんするよ。 いってきます。				
3	うしと まめ こうかんしたよ。				
4	おかねじゃない。 ブンブン。 まめなんか いらぬい。 えいっ！				
5	以下、省略				

※ 保護者と相談の上、台詞となる文を設定。（本人が分かるもの、本人が使っているもの、動作や手話表現が絵と結びつき理解しやすいもの、ある程度くり返すことで本人が覚えられると思うものや覚えてほしいもの）

下線を引く：保護者や指導者の手話や動作を模倣して表現する。

○ 紙芝居の絵を見て、当てはまる手話や動作を表現する。

◎ 紙芝居の絵を見なくとも、当てはまる手話や動作を表現する。

→ 上記の日標が達成されたら、手話や動作を増やす。

例) うしを こうかん するよ。 → うしを おかねと こうかん するよ。

41

### 例4 学期や年間などを通した子供の姿容を示す



9  
か  
月  
後



C:.....  
M:(玉子を指差して)ちょうだいするよ。  
C:.....  
M:これ、ちょうだい。

C:(ひなあられをつかみながら)これ、ちょうだい。  
T:はい、これね。ひなあられだね。  
C:ひやああえ、ちょうだい。  
ママ、おかね、ちょうだい。  
M:はい、おかね、どうぞ。

大人がモデルを示すことの学習効果を生きた子供の姿容を通して伝えたい。

42

## 例5 学期や年間などを通した子供の姿容を示す

例 乳幼児教室 動物のまねっこ遊び

	どのような音声を聞かせたいのか	どのような発声を促したいのか	
牛	モー (低い声、伸ばす声)	オの口形 低い声 唇を閉じる、鼻を響かせる	絵カード+音声+手話・ 身振りを同時に示しながら見せる。 C:じっと見つめる。 C:手話・身振りの模倣 C:手話・身振り+音声の模倣
犬	ワン ワン (中間の高さの声、リズムがはっきりした声)	アに近い口形 中間の高さの音を出す リズムよく音を出す	絵カード+音声+手話・ 身振りを同時に示しながら見せる。 C:手話・身振りの模倣 C:手話・身振り+音声の模倣
猫	ニャーオ (高い声、伸ばす声)	イに近い口形 高い音を出す 口を滑らかに動かす	・音声を聞かせてみる。
ブタ	ブー ブー (中間から低めの声、リズムがはっきりした声)	ウの口形 中間の高さの音を出す 唇を閉じる、息を勢いよく出す、 リズムよく音を出す	複数のカードを示して音声を聞かせてみる。 又は手話・身振りを示す。
カラス	カー カー (中間から低めの声、リズムがはっきりした声)	アの口形 中間の高さの音を出す リズムよく音を出す	
馬	ヒヒーン (高い声、伸ばす声)	イに近い声 高い音を出す	

手話を用いることが音声の聴取や発語の妨げにならないことを伝えたい。

43

### I 聴覚障害教育を取り巻く状況と取り組むべき課題

- 1 一人一人の幼児児童生徒に応じた教育の充実
  - 特別支援教育教育課程研究協議会から
  - 学習の基盤となる資質・能力の育成を目指して
    - 情報活用能力 -
- 2 保護者や学校以外の関係者に対する説明
  - 目に見えないことを伝える取組
- 3 医療・福祉・労働等の関係機関との連携
  - 保健、医療、福祉と連携した聴覚障害のある乳幼児に対する教育相談充実事業
- 4 地域や社会との連携や協働

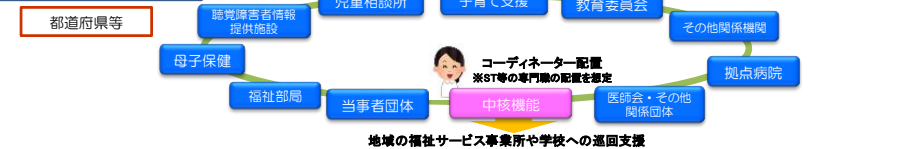
44

聴覚障害児支援中核機能モデル事業について

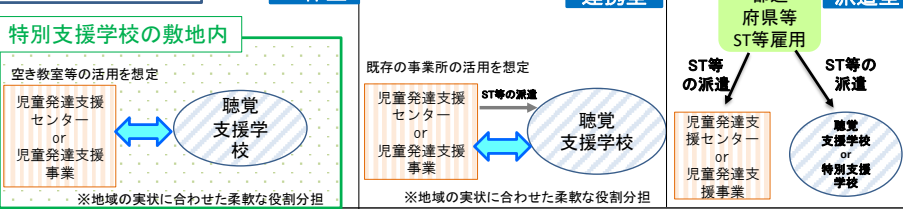
【新規】令和2年度予算 168,000千円

目的	内容	実施主体
<p>聴覚障害児の支援は乳児からの適切な支援が必要であり、また状態像が多様になっているため、切れ目のない支援と多様な状態像への支援が求められる。</p> <p>このため、福祉部局と教育部局が連携を強化し、聴覚障害児支援の中核機能を整備し、聴覚障害児と保護者に対し適切な情報と支援を提供することを目的とする。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聴覚障害児に対応する協議会の設置</li> <li>2. 聴覚障害児支援の関係機関との連携</li> <li>3. 家族支援の実施</li> <li>4. 巡回支援の実施</li> </ol>	<p>・都道府県 ・指定都市 (委託可) ※全国で14か所程度</p>

協議会のイメージ



中核機能イメージ



45

保健、医療、福祉と連携した聴覚障害のある乳幼児に対する教育相談充実事業

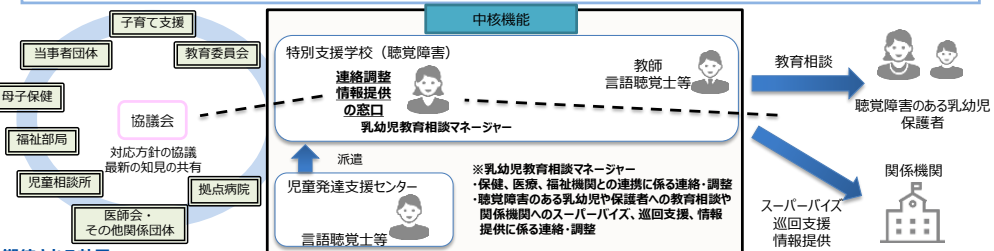
(新規) 令和2年度予算額 19百万円

背景説明

聴覚障害児には早期からの支援が必要であるが、現状は身近な地域での就学前の療育の場が少なく、また地域格差も見られる。現在も聴覚障害を対象とする特別支援学校においては、地域の聴覚障害児やその保護者に対して教育相談を行っているが、保健、医療、福祉など厚生労働行政と連携して最新の知見を得るとともに、学校内の教育相談に係る体制を強化することにより、さらに充実することが求められている。

事業内容

- 特別支援学校（聴覚障害）における乳幼児教育相談の拡充（都道府県 7箇所）
  - ・保健、医療、福祉機関など、厚生労働行政との連携により得られた最新の知見に基づく教育相談の実践
  - ・教育相談を行うための学校内の体制強化（乳幼児教育相談マネージャーの配置）
- 乳幼児教育相談に係るモデルの普及（国）



期待される効果

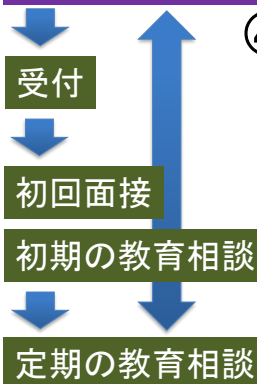
聴覚障害に係る教育相談の実践の蓄積、乳幼児教育相談マネージャーを活用した聴覚障害に係る教育相談の実施体制の構築を行うとともに、この成果を全国に普及させることにより、乳幼児期の聴覚障害に係る教育相談を充実させ、地域格差の縮小を図る。

46

## 特別支援学校（聴覚障害）における乳幼児教育相談の現状

医療機関・療育施設等からの紹介

（地域により、実情は異なる）



### ④ 関係機関との連携

- 情報共有、助言、役割分担など

### ① 個別相談

- 保護者相談
- 子供の実態把握（聴力測定、行動観察など）
- 補聴器の選択・調整

### ② グループ指導

- 集団での活動（親子活動）
- 各種講座

### ③ 個別相談・指導

- 保護者相談、助言など
- 子供の実態把握（聞こえ・言葉の発達等）
- 補聴器の装用効果の評価など
- 子供への指導
- 親子コミュニケーションへの助言

47

## I 聴覚障害教育を取り巻く状況と取り組むべき課題

- 一人一人の幼児児童生徒に応じた教育の充実
  - 特別支援教育教育課程研究協議会から
  - 学習の基盤となる資質・能力の育成を目指して
    - 情報活用能力 -
- 保護者や学校以外の関係者に対する説明
  - 目に見えないことを伝える取組
- 医療・福祉・労働等の関係機関との連携
  - 保健、医療、福祉と連携した聴覚障害のある乳幼児に対する教育相談充実事業
- 地域や社会との連携や協働

48

## **I 聴覚障害教育を取り巻く状況と取り組むべき課題**

- 1 一人一人の幼児児童生徒に応じた教育の充実
- 2 保護者や学校以外の関係者に対する説明
- 3 医療・福祉・労働等の関係機関との連携
- 4 地域や社会との連携や協働

## **II 研究報告について**

- 1 青森県立八戸聾学校 大坂 充 校長先生
- 2 栃木県立聾学校 高野 久美 校長先生
- 3 京都府立聾学校 芦田 雅哉 校長先生

## **III お知らせ**

49

## **I 聴覚障害教育を取り巻く状況と取り組むべき課題**

- 1 一人一人の幼児児童生徒に応じた教育の充実
- 2 保護者や学校以外の関係者に対する説明
- 3 医療・福祉・労働等の関係機関との連携
- 4 地域や社会との連携や協働

## **II 研究報告について**

- 1 青森県立八戸聾学校 大坂 充 校長先生
- 2 栃木県立聾学校 高野 久美 校長先生
- 3 京都府立聾学校 芦田 雅哉 校長先生

## **III お知らせ**

50

## お知らせ 1 「聴覚障害教育の手引」の改訂

近年、人工内耳装用児や重複障害のある幼児児童生徒の割合の増加、学びの場の多様化に伴う幼児児童生徒の教育歴の多様化など特別支援学校（聴覚障害）を取り巻く状況が変化している。また、手話に対する理解や多様な方法による意思疎通について社会の関心が高まっている。

このような状況を踏まえ、聴覚障害教育においてますます重要となる「言語指導」に焦点を当て、「聴覚障害教育の手引き」を改訂した。

※本書において言語指導とは、語彙の獲得や文章の理解及び表出、対話等に関する能力の育成を目指すもの。

### Point 1

聴覚障害教育の経験の浅い教員に対する研修や教員個人での自己研鑽で活用することを想定し、言語指導の重要性を含む聴覚障害教育の基本的な内容について、平易な表現でわかりやすく作成（特別支援学校教職課程で学ぶ学生が活用することも考えられる）。

### Point 2

音声、文字、指文字、手話などコミュニケーションにおける多様な方法の機能と特徴、これらを活用する際の基本的な考え方を解説。

### Point 3

特別支援学校における授業や乳幼児教育相談等の場面で、人工内耳装用児や重複障害児に対する実践例を含め、言語指導を重視した事例を中心に選定。また、特別支援学級や通級による指導の場面や教員研修に関する実践例も掲載。



文部科学省HPにて公開

株式会社ジアース教育新社より発行される予定

51

季刊誌

# 特別支援教育

文部科学省特別支援教育課編集の  
特別支援教育の総合情報誌

関係者必携



令和2年秋 第79号

発行日：年4回刊行 3・6・9・12月  
第79号価格：900円（税込み）

【特集】

新型コロナウイルス感染症対策としての学校の臨時休業に係る学校運営上の工夫

- 視覚障害教育における学びの保障とオンライン授業の取組
- 桐ヶ丘オンライン学校による家庭学習支援
- 隣接する総合療育センターと連携した遠隔学習の取組
- 病弱教育における学びの保障を目指したICT活用の取組

巻頭言「学校の新しい生活様式の中での学びの保障」  
全国特別支援学校長会長 市川 裕二氏

- 連載「我が校のカリキュラム・マネジメント」
- 子供をささえるネットワーク/卒業生は今/研究最新情報/教育委員会の取組/施策だより

本誌の購入のお申込みは・・・

- ◆全国の書店  
最寄りの書店等で御購入下さい。定期購読もすることができます。
- ◆東洋館出版社  
年間定期購読を受け付けております。  
TEL03-3823-9206  
<http://www.toyokan.co.jp/search/g2797.html>
- ◆インターネットからも購入することができます。



52